

5 成長力・国際競争力強化のための広域幹線道路網の整備促進と道路財源の充実強化について

(国土交通省、財務省)

【提言の内容】

- (1) 我が国の成長力・国際競争力強化のための広域幹線道路ネットワークとして、新東名高速道路、名古屋環状2号線、三遠南信自動車道の早期整備を図ること。
- (2) 重要な港湾・空港へのアクセス道路である名豊道路、西知多道路は、国が責任を持つべき道路として着実に整備促進を図ること。
- (3) 地域の自立・活性化、安心・安全の確保のため、地方が自ら必要とする道路整備が確実に実施できるよう、道路財源の充実強化を図ること。
- (4) 「高速道路の原則無料化」を始めとする道路行政の抜本改革にあたっては、地方の実情や意見を十分に踏まえること。

(背景)

- 社会経済のグローバル化が進展し、百年に一度の世界同時不況の中、厳しい国際競争に打ち勝っていくためには、モノづくりを支える道路ネットワークをさらに充実する必要がある。
- 本県内の新東名高速道路は、平成26年度を完成目標に豊田東JCTから静岡県境間の整備が進められているが、静岡県側に比べ整備が大幅に遅れている。東名高速道路は、豊田東JCTから岡崎IC間の日交通量が約10万台に達するなど、慢性的な渋滞状況にあるため、新東名高速道路の1日も早い完成が急務となっている。
- 名古屋環状2号線の東部・東南部区間（名古屋南JCT～高針JCT間）は、平成22年度完成目標で整備中であり、完成時期が間近である。スーパー中枢港湾として次世代高規格コンテナターミナルなどの整備が進む名古屋港への重要なアクセス道路となる西南部・南部区間は、既に必要な用地が確保され、短時間で整備でき、環状道路としてつながることにより、本来の機能を発揮することができる。

- 地域高規格道路の名豊道路は、実質、国道1号線のバイパス機能を有し、三河港等の重要港湾と西三河南部の輸送関連機器等の工場群を結ぶ重要な東西軸である。既に計画区間の6割以上が供用し、残区間も全線で事業中であり、ネットワークの早期連結が可能である。また、西知多道路は中部国際空港と高規格幹線道路との間を連絡する国の中核ネットワークを形成する路線であり、国が責任を持って着実に整備促進を図るべきである。
- 本県においては、幹線道路における慢性的な渋滞、多発する交通事故及び山間地域の未改良道路など、道路整備に対する課題が山積するとともに、橋梁を始めとする道路施設の急速な老朽化に対応した適正な維持管理と更新が大きな課題となっている。こうした道路整備ニーズに対応するため、今後も計画的かつ効果的に整備を進めていく必要がある。
- 「高速道路の原則無料化」を始めとした道路行政に関わる新たな制度設計にあたっては、地方の意見を反映し、地域の状況を十分踏まえ、地方負担の増加がないようにすべきである。

愛知県幹線道路網図

東海環状自動車道
美濃関JCT～関広見IC
平成21年4月18日開通



— 三遠南信自動車道

平成21年10月現在

凡 例	
(供用中)	※供用中には暫定供用含む
(計画・事業中等)	
	高規格幹線道路
	地域高規格道路 (計画路線)
	地域高規格道路 (候補路線)
	広域道路(交流促進型)
	一般国道等